

平成二十五年 徳川園紅葉祭 小学生・中学生俳句大会

平成25年11月21日から12月1日まで「徳川園紅葉祭」の一環として開催した「小学生・中学生俳句大会」は、投句数にして983句のご応募をいただきました。たくさんの方々のご参加、誠にありがとうございました。

審査会を行った結果、最優秀作品 小学生の部二句、中学生の部二句、入選作品 小学生の部五句、中学生の部六句を次のとおりに決定いたしました。

(賞・部門ごとに学年順・五十音順)

◆審査会委員 (五十音順)

井澤 昭雄 (四日市中日文化センター講師、ともしび詩舎同人)

加藤 啓子 (公益財団法人徳川黎明会 徳川美術館 企画推進部 課長)

桐原 千文 (名古屋市蓬左文庫 文庫長)

岩田 正雄 (公益財団法人 名古屋市みどりの協会 徳川園管理事務所 所長)

《最優秀作品・小学生の部》

名古屋市立 旭丘小学校 (東区) 一年 草間 美鈴 さん

もみじさん かぜといっしょにおにぎりっ

もみじさんという呼びかけがいいですね。

青い空をバックに風に舞う真っ赤なもみじの葉っぱが鬼ごっこして
いるように見えたのでしよう。

徳川園の龍仙湖畔に日光に照り映えて舞う散もみじの一瞬をとらえ
うまく表現されて「紅葉祭」の景色が眼に浮かびます。

【審査員 井澤 照雄】

《最優秀作品・小学生の部》

名古屋市立 山吹小学校（東区） 四年 西田 結乃祐 さん

赤トンボ メガネは何色 夢の色

「とんぼのメガネ」と童謡にも歌われた異様に大きなトンボの目。周りの景色を映して何色にも輝きそう。独特の赤色で秋を彩る赤とんぼの大きな目は何色？心を映す「夢の色」。

このリズム感と「夢の色」の一言がだれの心にも赤とんぼ、秋、そして様々な思いを広げます。

【審査員 桐原 千文】

《最優秀作品・中学生の部》

名古屋市立 桜丘中学校（東区） 一年 伊藤 かこさん

解けそうで 解けぬ問題 秋の夜

宿題でしようか。期末テストにむけての勉強でしようか。勉強に集中するには絶好の秋の夜長。机の上には問題集とノートと鉛筆とそれらを照らす灯り。問題の内容を充分読み取り、大体は答えの方向が分かかってきたが、決め手となる答えが見つからない。静かな時間の流れが感じられます。

【審査員 加藤 啓子】

《最優秀作品・中学生の部》

名古屋市立 あずま中学校（東区）三年 三上 円香 さん

名月を 友と見上げた 塾帰り

間もなく迎える受験という関門を突破するため友人と共に学んでいる塾の帰り路、澄み切った夜空に浮かぶ月を見てほんのひととき「名月だな」とお互いに語り合う姿が浮かぶようであります。苦しい時期であっても、今日のほんのひとときを思い出し、いつまでも交友を深めていただければと思います。

【審査員 岩田 正雄】

《入選作品・小学生の部》

名古屋市立 矢田小学校（東区）二年 川口 優芽 さん

もみじはね おとなになったら おちるんだ

名古屋市立 東白壁小学校（東区）二年 瀧谷 春太 さん

もみじの葉 レッドカーペットで おもて・なし

《入選作品・小学生の部》

名古屋市立 筒井小学校（東区）二年

平林 ひらばやし 大晟 たいせい さん

いもごはん 金のほう石 入ってる

名古屋市立 旭丘小学校（東区）三年

佐藤 さとう 秀真 しゅうま さん

夜の園 その さかさのこう葉 うつる池

名古屋市立 砂田橋小学校（東区）五年

松永 まつなが 理茜 あかね さん

秋の空 もみじが空に 咲いている

《入選作品・中学生の部》

東海学園 東海中学校（東区）一年

柿崎 かきざき 貴則 たかのり さん

何読もう 何を食べよう この秋に

《入選作品・中学生の部》

名古屋市立 富士中学校（東区）二年 朱しゆ 鳳亭ほうていさん

紅葉の じゆうたん返して くり拾い

東海学園 東海中学校（東区）二年 武井たけい 嶺れいさん

草を飛び 空も飛び越せ きりぎりす

東海学園 東海中学校（東区）二年 浅野あさの 新あらたさん

何も無い 田んぼを見張る かかしかな

東海学園 東海中学校（東区）二年 木全きまた 康太こうたさん

授業中 ゆっくり進む いわし雲

東海学園 東海中学校（東区）二年 櫻井さくらい 健太朗けんたろうさん

長くなる ススキの文と 影法師

《総評》

徳川園紅葉祭俳句大会にご参加していただきました小学生、中学生の皆さん、どうもありがとうございました。

徳川園では春の牡丹祭と秋の紅葉祭の時期に俳句大会を開催しており、今回で第5回目となり毎回参加者の方が増え次回の投句を楽しみにしています。

今回のテーマは「秋」でしたので「紅葉」を詠んだ句が多かったですが、「あかとんぼ」や「食欲の秋」「秋の夜」など、さまざまな視点で作者の秋をとられた句も多くありました。

さて、今回の最優秀作品に選ばれた4点は、いずれも魅力的で素晴らしいものでした。小・中学生の皆さんには、どうしても学年による表現力の違いがありますので、審査の観点としては、俳句の専門的な決まり事にこだわらなく、年齢に応じた言葉で表現されていることなどを考え、審査員の心に強く残ったものを選択しました。

優秀作品はもちろんのこと、他の入選作品や選に漏れた作品の中にも心に留まる表現をされた作品も多々ありました。

徳川園および徳川美術館、名古屋市蓬左文庫は、尾張徳川家由来の歴史文化施設として、中世武家文化の魅力を国内外の皆様発信していくことが役割であります。

俳句大会を通して、自然・歴史・文化的の地球環境の地で、四季の情景を「俳句」で表現することは感性を育む大切な時期である小・中学生の皆さんにとって言葉を大切にすることを思います。

最後に、今回の大会で小・中学生の皆さんが俳句を考えるにあたって、助言や指導をしていただいた保護者、学校先生の方々に厚く御礼申し上げます。今後も子どもさんが自らの感性や想像を言葉に表現する楽しみにご一緒に参加していただけることをお願い致します。

審査会代表 徳川園管理事務所長 岩田 正雄